

UTILITY MODEL OF JAPAN

Publication number : 60-129178

Date of publication of application: 30.08.1985

Int.Cl.

H05K 5/02

H04N 5/66

F21V 19/00

Application number: 59-14442

Applicant: SUWA SEIKOSHA

Date of filing : 03.02.1984

Inventor: HIROSHI KURIYAMA

**PERIPHERAL MECHANISM FOR FLUORESCENT LIGHT TUBE IN ELECTRONIC
INSTRUMENT**

Publication number : 60-129178

Abstract

The peripheral mechanism for a fluorescent light tube in an electronic instrument according to the present idea comprises a housing, a fluorescent light tube cover detachably attached to said housing, a fluorescent light tube and so on, wherein said fluorescent light tube is detachably fixed at said fluorescent light tube cover.

公開実用 昭和60—129178

⑭ 日本国特許庁(JP)

⑮ 実用新案出願公開

⑯ 公開実用新案公報(U)

昭60-129178

⑰ Int. Cl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	⑱ 公開 昭和60年(1985)8月30日
H 05 K 5/02	1 0 2	7216-5F	審査請求 未請求 (全 頁)
H 04 N 5/66		7245-5C	
// F 21 V 19/00		2113-3K	

⑲ 考案の名称 電子機器の螢光管周辺構造

⑳ 実 願 昭59-14442

㉑ 出 願 昭59(1984)2月3日

㉒ 考 案 者	栗 山 弘	諏訪市大和3丁目3番5号 株式会社諏訪精工舎内
㉓ 出 願 人	株式会社諏訪精工舎	東京都新宿区西新宿2丁目4番1号
㉔ 代 理 人	弁理士 最 上 務	

明 細 書

考案の名称

電子機器の蛍光管周辺構造

実用新案登録請求の範囲

- (1) 少なくとも箱体、該箱体に着脱可能に取付けた
蛍光管用ふた、蛍光管等より成り、該蛍光管を
前記蛍光管用ふたに、着脱可能に固定している
ことを特徴とする電子機器の蛍光管周辺構造。
- (2) 前記蛍光管用ふたに前記蛍光管の光の反射部
を形成していることを特徴とする実用新案登録
請求の範囲第1項記載の電子機器の蛍光管周辺
構造。

考案の詳細な説明

〔技術分野〕

本考案は蛍光管を使用する電子機器の蛍光管周
辺構造に関する。

〔従来技術〕

従来の電子機器、特に携帯用ラジオ、テレビと

いった機器に於いては、豆電球、B.L.等を内蔵している例はあっても蛍光管を内蔵若しくは外部取付している例はなかった。

〔目的〕

本考案は前述した従来の機器と比較して、かなり強い光を必要とするために蛍光管を利用した電子機器に於いて、主に蛍光管を所定の場所に確実に位置決めすること、またユーザーが容易に蛍光管を交換できること、さらに蛍光管の光を必要箇所十分に導くことを目的とする。

〔概要〕

本考案の電子機器の蛍光管周辺構造は、箱体と該箱体に着脱可能に取付けた蛍光管用ふたと蛍光管等より成り、前記蛍光管用ふたに前記蛍光管を着脱可能に固定していることを特徴とする。

〔実施例〕

以下、本考案について実施例に基づき詳細に説明する。第1図は本考案による蛍光管を使用した電子機器の一実施例を示す概観図である。1は電子機器の箱体、2はテレビ等の表示用パネル（例

えば T F T 等の透過型液晶パネル)、3 は該表示用パネル 2 のバックライトとして用いる蛍光管、4 は蛍光管用ふた、5 は固定ねじである。図において前記蛍光管用ふた 4 は片側を前記箱体 1 に引っ掛けて他方を固定ねじ 5 によってねじ止めすることにより箱体 1 に着脱可能に取付けている。第 2 図は前記第 1 図の蛍光管 3 と蛍光管用ふた 4 の関係を示す部分図であり、蛍光管 3 は蛍光を発する部分 3 a と外部電極 3 b、保持部材 3 c より成る端末部 3 d 等より構成されている。また蛍光管用ふた 4 は前記蛍光管 3 を着脱可能に固定している固定部 4 a を有している。該固定部 4 a は蛍光管 3 を着脱できうる形状であると同時に前記蛍光管の 3 a 部を包み込む形状であり、これにより蛍光管 3 の径方向の位置決めが成される。また同じく固定部 4 a の側面と蛍光管の端末部 3 d の側面とにより蛍光管 3 の長手方向の位置決めも成される。

尚、前記蛍光管 3 の複数の外部電極 3 b の電気導通は前記第 1 図の箱体 1 内部に複数本の電気導

通用端子を配置しており、前記蛍光管用ふた4を箱体1に取付けると、前記外部電極8bと電気導通用端子が接触し、例えば前記第1図のバックライトONスイッチ6を入れると電気導通が成される構造になっている。次に第3図は本考案の電子機器の蛍光管周辺構造の他の実施例を示す図であり、特に蛍光管用ふた4は蛍光管3の光の反射部4bを有している。これにより蛍光管3の光は必要箇所に充分に導かれる。ここで反射部4bは蛍光管用ふた4と一体に成形しても良いし、4b部のみ別体で成形あるいは別体で成形したものにニッケル、クロム等の鏡面メッキを施したものを蛍光管用ふた4に接着または溶着したものでも良い。また蛍光管3は特に長手方向の位置決めが不要な場合は図の様に一般的な形状で良い。これは第2図に於いても同様である。

〔効果〕

以上述べたように本考案によれば、蛍光管を利用した電子機器に於いて第1図、第2図の如くすれば蛍光管を所定の場所に確実に位置決めするこ

とができ、またユーザーが容易に蛍光管を交換することができる。また第 8 図の如くすれば蛍光管の光を必要箇所に充分に導くことができる等、すぐれた効果を有するものである。尚近年携帯型の液晶テレビが数多く発表されているが、液晶テレビは暗所に於いてはバックライトが不可欠となる。このバックライトとして蛍光管を使用する場合には本考案の構造が最適なものであると言える。またテレビに限らずハンディーコンピューター等に於ける画像表示部のバックライトとしても広く利用できる構造である。

図面の簡単な説明

第 1 図 (a) (b) は本考案による電子機器の蛍光管周辺構造の一実施例を示す概観図。

第 2 図 (a) (a) は第 1 図の部分図。

第 3 図 (a) (b) は本考案による電子機器の蛍光管周辺構造の他の一実施例を示す部分図。

1・・・電子機器の箱体

2・・・表示用パネル

3 . . 螢 光 管

3 a : 螢 光 を 発 す る 部 分

3 b : 外 部 電 極

3 c : 保 持 部 材

3 d : 端 末 部

4 . . 螢 光 管 用 ふ た

4 a : 固 定 部

4 b : 反 射 部

5 . . 固 定 ね じ

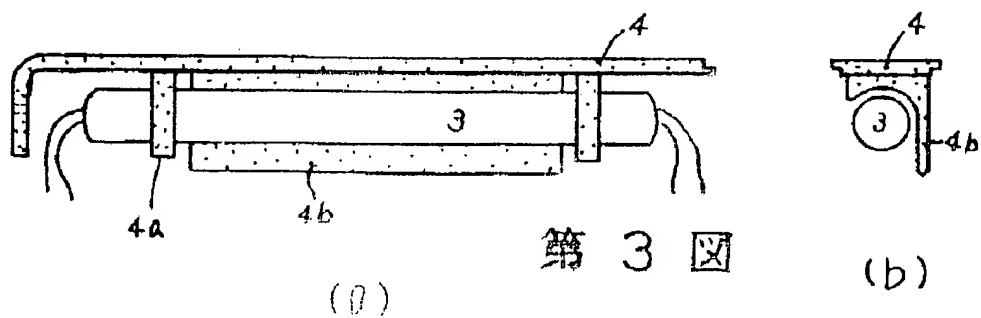
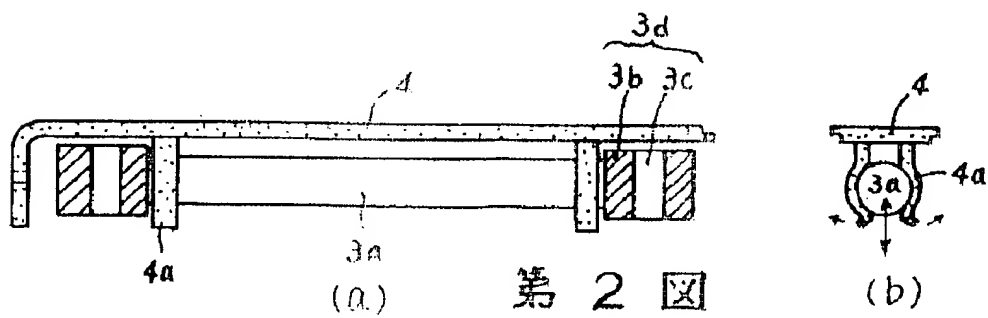
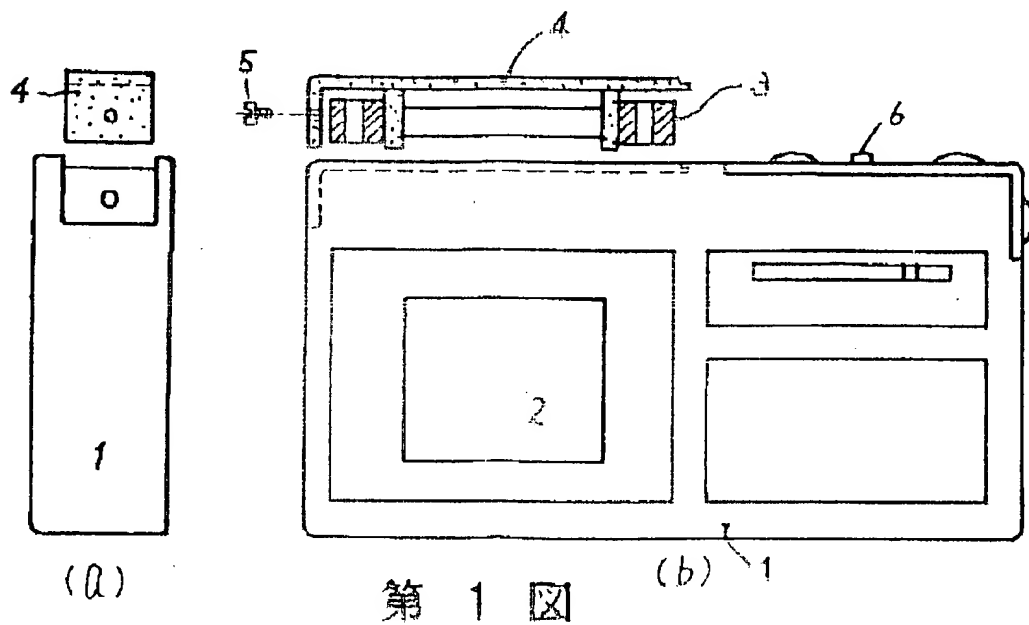
6 . . バ ッ ク ラ イ ト O N ス イ ッ チ

以 上

出 願 人 株 式 会 社 諏 訪 精 工 会

代 理 人 弁 理 士 最 上 務





655

實開 10 122173

出願人 株式会社 源助精工舎
代理人 丹理士・殿 七 壽